

みやけの風

第 232 号

平成 17 年 (2005 年) 7 月 23 日 (土) 発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸 1-1 セントラルプラザ 10 階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

待ちに待った夏休みも始まり、来週にはよいよ7月も最後の週になります。三宅島支援センターでは、7月末に帰島される方々のお手伝いさせていただこうと、引き続き活動を続けています。なにか人手が必要な際は、お気軽にお電話をくださいね。

三宅島支援センター TEL：04994-2-7130

みんなの声

ふれあいコール、いつもお付き合い
 いただきありがとうございます

皆さまこんにちは、お変わりありませんでしょうか？ふれあいコールです。

梅雨も明け、いよいよ本格的な暑い夏に向かいます。くれぐれも熱中症等にお気をつけてお過ごしくださいませ。

避難解除そして帰島。7月も残すところ1週間となりました。ふれあいコールも平成13年1月より始まり、お声かけだけのふれあいの中、皆さまのご協力をいただき、私にとって振り返ってみて、あっという間の4年半でした。時には電話は、こちらの都合だけで発信するものですから、出たくないときもおありと思いますのに、快く接していただけたこと、何より感謝の気持ちでいっぱいです。

島もまだまだガスの放出もあり、先日も避難命令が出されたとか・・・。楽しいはずの子どもさん達の夏休みも複雑な思いでテレビを見ておりましたが、ある子どもさんが「思いつき海で泳ぎたい」の言葉に、本当に一日も早く安全な島に戻り、楽しい思い出づくりが出来ますように祈りたい気持ちです。

海と言えば、故ジャック・T・モイヤー先生の姿が思い出されます。

館長だった「アカコッコ館」も、野鳥の会の皆様のおかげで、7月22日から再会されるとのこと。この日をどんなに待たれていた事でしょうに、先生の心中を推し量ることは出来ませんが、ただただ残念でなりません。先生のお人柄をいつ迄も心に刻み、ご冥福をお祈り申し上げたいと思います。

最後になりましたが、帰島された方、帰島

されない方と体調を崩されている方が多いと聞いております。

心身共にお疲れのことと思いますが、どうぞお身体にお気をつけて、一日一日を大切にお過ごしくださいますよう念じております。

三宅島の自然をこよなく愛して下さった方々、きっとまたいつの日か訪れてくださることを信じて。「待つてんべーじよ～」

(越谷市 阿古 若木恵美子)

人生いろいろ、出会いもいろいろ

このたび、中学校時代の担任の叙勲を祝う会にご招待いただき、その時三宅島の様子と、中学校時代の思い出を話してほしいと言われ、「あっ、避難生活でお世話になった方たちにお礼が言える」と、また、思いました。

「私たち三宅島島民は、4年半に亘っての避難生活の間、日本中の皆さまに励まされ支えられて、この度無事帰島がかないました。避難生活の中で、『人間の優しさ、素晴らしさ、見ず知らずの人のために此処まで親切に出来るのか』ということほどの出会いが多くありました。そして、帰島。4年半の間、島中の家はネズミやイタチに荒らされ、庭は草木が生い茂り、どう手をつけたらよいか、途方にくれる思いでしたが、東京からのボランティアさんが、『三宅島支援センター』を通じて手助けをしてくれています。三宅島は災害の多い島です。今でも毎日火山ガス警報が鳴り続けていますが、そんな中でも多くの方たちの優しさに支えられて、落ち着いた生活が始まっています。」

と挨拶したのですが、そこには、三宅島の

我が家でボランティアをしたという方が居合わせ、手を取って喜び合いました。

中学時代の思い出話になると、貧しかった時代を生きてきた共有の経験があり、笑った

『よみがえれ三宅島！！』

～ジャック・T・モイヤー氏への報告～

7月21日木曜日、昨年1月亡くなったジャック・モイヤー氏を追悼するため、「よみがえれ三宅島！！」と三宅島観光協会が中心となって、イベントが行われ、200名以上が参加した。

観光協会会長の上松幸男氏が、カンムリウミスズメの繁殖地だった三本岳を爆撃から守ろうと、その中止を時の大統領トルーマンに直訴したエピソードを交え、その後53年間に亘り三宅島の自然を愛し、海洋生物学者として多大な功績を残されたモイヤーさんの活躍をたたえ感謝をこめて挨拶した。その後、来賓の挨拶に続き、アカコッコ館から2名が代表してジャックさんの遺影に献花をささげた。

木やり太鼓に続き午前10時過ぎ、島の漁船10杯に10人ずつ程、子どもから観光客、関係者など『よみがえれ、三宅島』の文字がプリントされたオレンジ色のそろいのT・シ

りうなづいたりして、共に生きてきた時代への思いを感じました。

人は多くの人と出会い、その中で幸せを感じるものなのでしょうか。(阿古 鈴木則子)

ヤツで乗り込み、三本岳をめぐる散骨をして、追悼クルーズをした。

正午には阿古漁協に戻り、バーベキューで焼きそば、タカベなどをみんなで楽しみ、午後1時半頃終了した。

当日はガスも出ず日も照って、最高の三宅日和でこうしたイベントの第一弾としては幸先良いスタートだと感じた。あさってのアカコッコ館の開館も待たれるところで、ぜひ多くの観光客の方々には、ガスを恐れず、實際来て見て体験して、三宅島のよさを味わってほしいと思う。

今回の参加者には、JTBや近畿日本ツーリストなどエージェンツも含まれていて、三宅島の観光の本格的再開に手ごたえを感じた。今回のイベントは、これから観光の復興に一生懸命努力していくためにも大成功だったのではないかと思う。(阿古 有馬 正美)

みやけの風現地センターから

セミの大合唱も始まり、夏本番がやってきました。しかし、そこは島の夏らしく、日中はギラギラと日差しが強く眩しいくらいの陽気ですが、夕方になれば陽が和らいで、そよそよと気持ちのいい風が穏やかに吹いています。

今週は、島の有志の方々と一緒に、私たちがお借りしている、ここ伊豆老人福祉館の周りの草刈を行いました。以前から、私達の手できれいに草刈をしたいと考えていましたが、島の方々から「一緒に草刈をして、過ごしましょう」というお話をいただいて、19(火)・20(水)の二日間を掛けて一緒にさせていただきました。

19日は、朝9時に集合してから作業を始めました。島の男性陣が草刈機やノコギリ・カマなどを持ち、私達ボランティアはその後ろをついて、手作業での草刈となりました。暑さの中の作業でしたが、力をあわせて作業を進め、みるみるときれいになっていきました。

そして二日目。総勢50名が集まり、午前中は昨日に引き続き草刈をする一方、島の皆さんのご好意で、昼食をとりながらの交流会を行いました。

グラウンドにテントを張り、シートを敷いて島の方々ボランティアと一緒に昼食をとりながらお話をし、とても和やかな時間を過ごしました。その後は、みんなで唄を歌ったり、笑ったりとても楽しい時間を過ごさせていただきました。

交流の中で、この五年間の出来事や今の暮らしの様子などをいろいろと伺うことができました。一方で皆さんは、様々な事情で帰島ができない方々への想いを強くお持ちになられていて、その方々に向けても、だからこそ島で元気に過ごさないといけないとの言葉を伺って、島の皆さんの「人を想う気持ち」と「やさしさ」を強く感じた一日でした。

7月22日 金曜日

三宅島支援センター 現地事務局より